

月齢・年齢別で見る起こりやすい事故

月・年齢	起こりやすい事故	事故の主な原因
新生児	周囲の不注意によるもの 窒息	☆誤って上から物を落とす ☆上の子が抱き上げてけがさせたり、物を食べさせる ☆まくらや柔らかい布団に顔が埋もれる（硬めの布団等を使い、仰向けに寝かせる）
1～6か月	転落 やけど	☆ベッドやソファ、抱っこひも、ベビーカーなどから落ちる（大人用ではなく、出来るだけベビーベッドで寝かせ、ベッドから離れるときは柵を上げる） ☆大人が子どもを抱いたまま熱い飲料をこぼす
7～12か月	転落・転倒・はさむ やけど 溺水 誤飲・中毒 窒息 車中のけが	☆扉、階段、ベッド、ベビーカー、椅子 ☆アイロン、ポットや電気ケトルのお湯、炊飯器やスチーム加湿器の蒸気 ☆浴槽、洗濯機に落ちる（残し湯をしない） ☆誤飲で多いものとして、たばこ、医薬品、化粧品、洗剤、コイン、ボタン電池、磁石など ☆お菓子などの食品がのどにつまる ☆座席から転落（チャイルドシートで防止できる）
1～4歳	誤飲・中毒 窒息 転落・転倒 やけど 溺水 交通事故	☆原因の範囲が広がり、あらゆるものが原因になる ☆お菓子、豆、ナッツ類、ブドウ、ミニトマトなどの食品がのどにつまる ☆階段、窓、ベランダ（踏台になるものを置かない） ☆歯ブラシでの喉突き事故 ☆熱い鍋に触れる、テーブルクロスを引いて湯をこぼす（テーブルクロスは使用しない）、ライター、マッチなどによる火遊び（子どもの手の届くところにライターなどを置かない） ☆入浴時、浴槽に落ちる、水あそび ☆飛び出し事故（手をつないで歩く）

※参考「子どもを事故から守る!! 事故防止ハンドブック」

(関連情報)

消費者庁ウェブサイト「子どもを事故から守る! 事故防止ポータル」

[\(https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/child/\)](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/child/)

子どもの事故防止 ハンドブック ページ

◎食べ物や玩具など、ものがのどにつまった時の応急手当

乳幼児は、大人が思いもよらないものを口にします。食べ物や玩具等がのどにつまると、窒息する危険があります。

周囲の大人が、普段から乳幼児ののどに詰まりやすい大きさの目安（3歳児の最大口径39mm、口から喉の奥までの長さ51mm。39mmとは、トイレットペーパーの芯程度）を知り、窒息につながりやすい食べ物の注意点や玩具の取り扱いに関する注意書きをよく確認するとともに、すぐに対処できるように、応急手当について知っておくことが必要です。

※口の中に指を入れて取り出そうとすると、異物がさらに奥へ進んでしまうことがあります。

ものがのどにつまった時の応急処置

窒息を疑ったら…

119番通報

たとえば
・声が出せないとき
・顔色が悪くて苦しそうなとき

反応はありますか？(※)

反応がある

反応がない

心肺蘇生

1歳未満の乳児(※)

胸部突き上げ法

背部叩打法

反応がなく
なれば

数回ずつ
交互に
行いましょう



片手で体を支え、手の平で後頭部をしっかり支えます。心肺蘇生法の胸部圧迫と同じやり方で圧迫しましょう



片手で体を支え、手の平であごをしっかり支えます。もう一方の手の平の付け根で背中をしっかり叩きましょう

異物が取れるか、救急隊と交替するまで繰り返し続けましょう

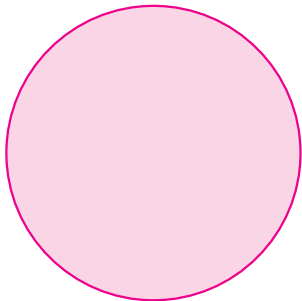
(※) 1歳以上の幼児

胸部突き上げ法や背部叩打法の代わりに行います

腹部突き上げ法（ハイムリック法）

背後から両腕を回し、子どものみぞおちの下で片方の手を握り拳にします。その手を腹部を上方へ圧迫しましょう。





誤飲

左の円の直径（39mm）は子どもの口の大きさです。この円に入る大きさのものは誤飲のおそれがあります。

身近なものをチェックしておきましょう。

◎子ども医療電話相談事業（電話番号：#8000（全国同一の短縮ダイヤル））

休日、夜間の子どもの症状にどのように対処したら良いのか、病院を受診した方が良いのかなど判断に迷った時は、小児科医師や看護師から、症状に応じた適切な対応の仕方や受診する病院等のアドバイスを受けられます。

※厚生労働省「子ども医療電話相談事業（#8000）について」

（<http://www.mhlw.go.jp/topics/2006/10/tp1010-3.html>）

※（公社）日本小児科学会「こどもの救急」ホームページ（<http://kodomo-qq.jp/>）

※沖縄県小児保健協会「子ども救急ハンドブック」（<https://www.osh.or.jp/>）